

## 6 いわき地域

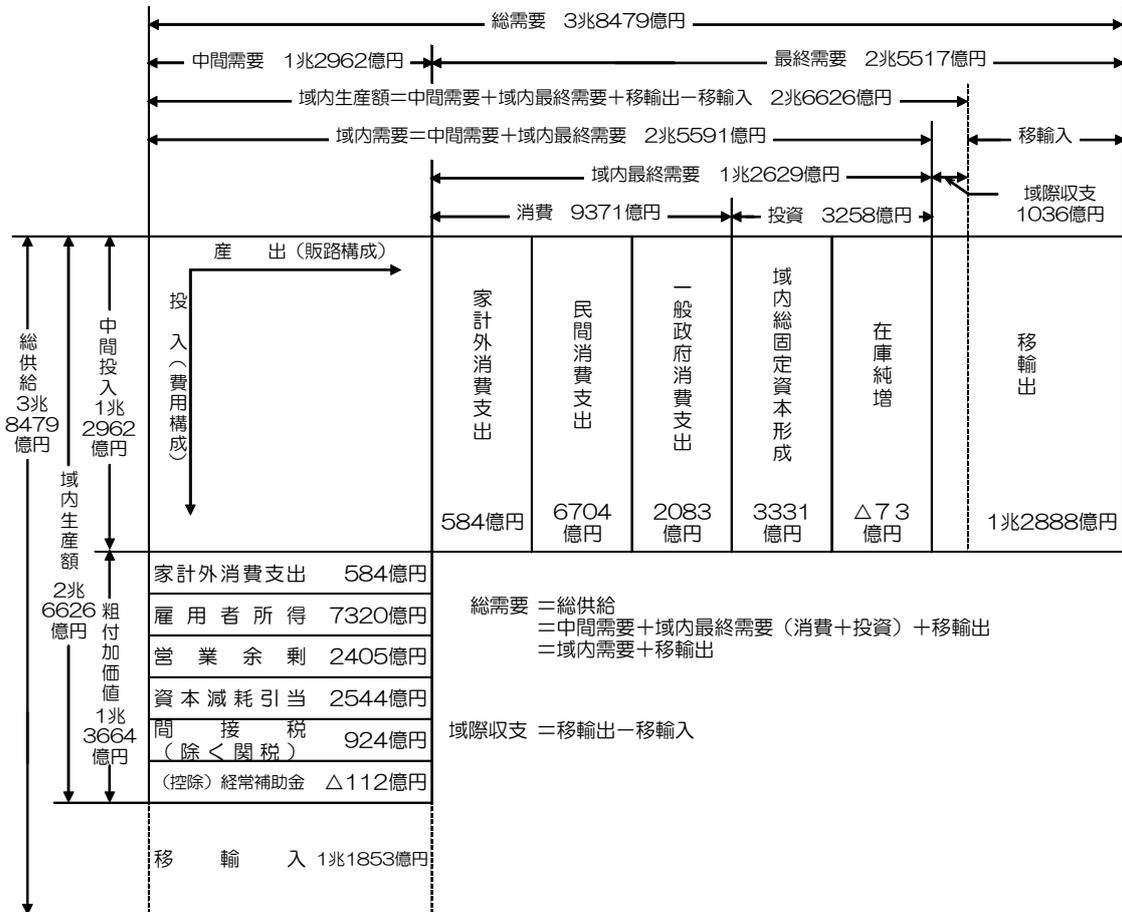
### (1) 平成12年いわき地域産業連関表の概要

表を縦方向（各産業が生産活動に要した費用の構成＝投入）にみると、全産業で2兆6626億円の域内生産額があり、そのうち1兆2962億円が中間投入で生産のための原材料・サービスなどとして産業内部で購入され、残り1兆3664億円が粗付加価値となっている。

表を横方向（各産業の生産物の販路構成＝産出）にみると、総需要は3兆8479億円で、このうち1兆2962億円が中間需要として産業部門間で取引され、残り2兆5517億円が消費（9371億円）、投資（3258億円）、移輸出（1兆2888億円）の最終需要に向けられている。

この総需要を満たすための総供給は、域内生産額2兆6626億円と移輸入1兆1853億円を合わせた3兆8479億円となっている。

第3-6-1図 平成12年いわき地域産業連関表の概要

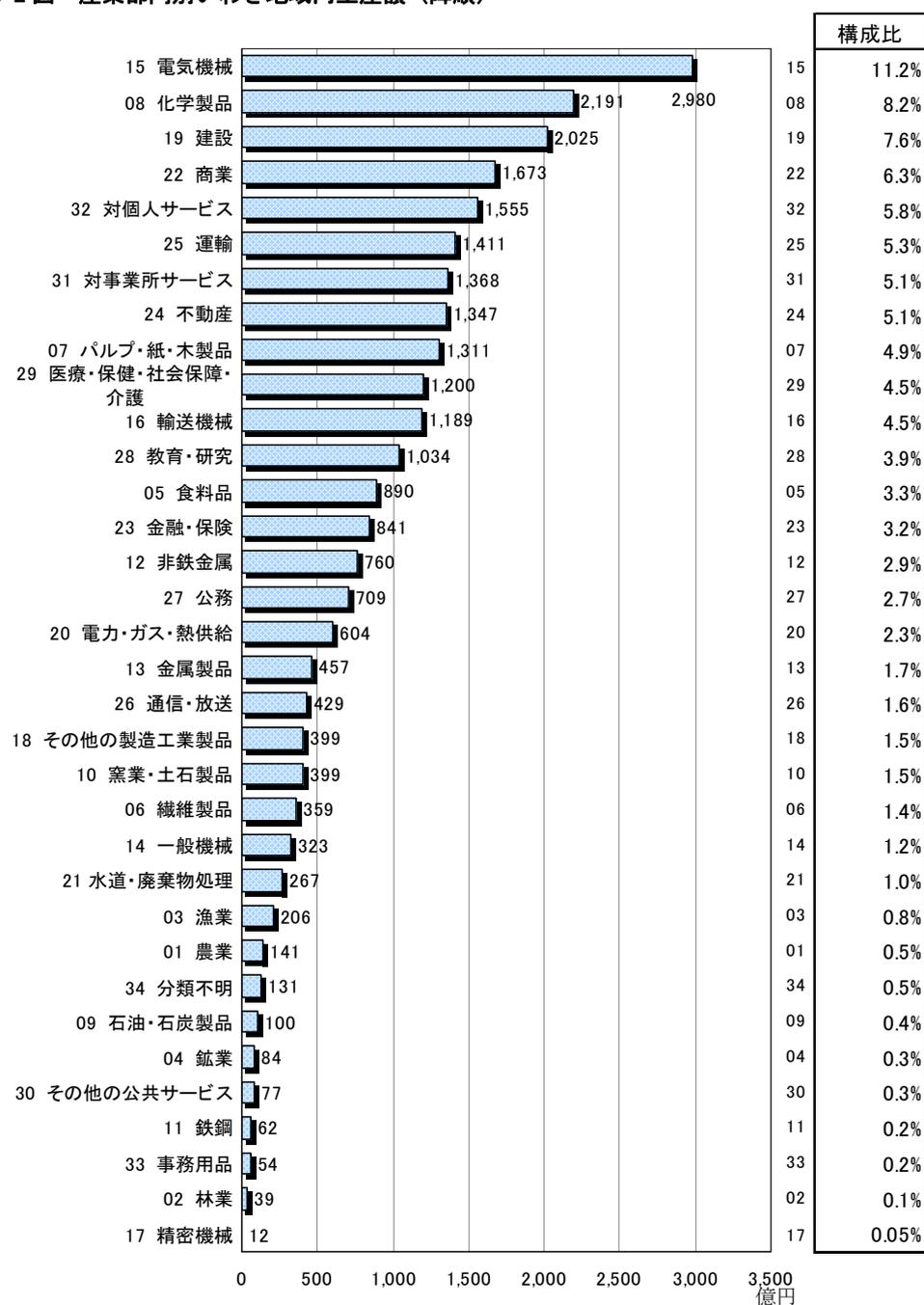


注 四捨五入の関係で、内訳と合計は必ずしも一致しない。

## (2) 域内生産額

いわき地域の34部門表での産業部門別域内生産額をみると、「電気機械」が2980億円で域内生産額の11.2%を占めており全産業部門中で最も大きい。次いで「化学製品」の2191億円（構成比8.2%）、「建設」の2025億円（同7.6%）、「商業」の1673億円（同6.3%）、「対個人サービス」の1555億円（5.8%）となっている。

第3-6-2図 産業部門別いわき域内生産額（降順）



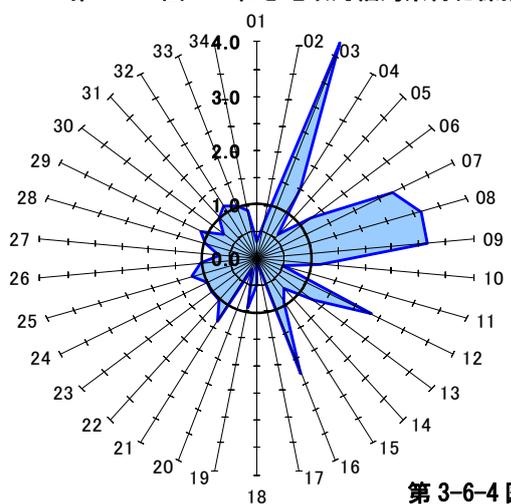
### (3) 特化係数

福島県の産業構成比との比較である対福島県特化係数を 34 部門表でみると、03「漁業」が 4.24 と最も大きく、次いで 09「石油・石炭製品」の 3.12、08「化学製品」の 3.11、07「パルプ・紙・紙製品」の 2.75、12「非鉄金属」の 2.35 となっている。

全国の産業構成比との比較である対全国特化係数をみると、最も大きいのは 12「非鉄金属」の 4.46 であり、次いで 03「漁業」の 3.85、07「パルプ・紙・木製品」の 3.18、08「化学製品」の 3.02、04「鉱業」の 2.19 となっている。

03「漁業」、08「化学製品」、07「パルプ・紙・紙製品」、12「非鉄金属」などは対県、対全国ともに特化産業であり、いわき地域を特徴する産業となっている。

第3-6-3図 いわき地域対福島県特化係数

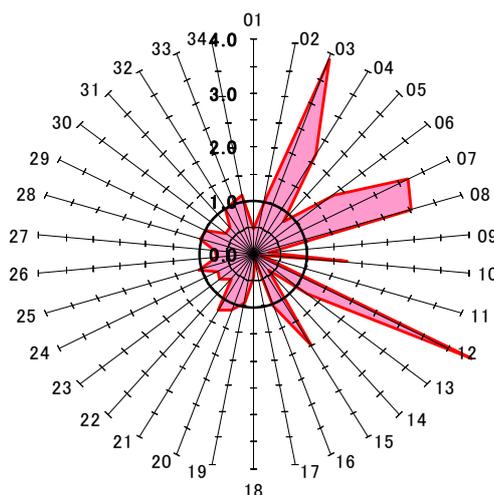


第3-6-5表 いわき地域特化係数

産業部門	対福島県特化係数	対全国特化係数
01	0.30	0.46
02	0.65	0.98
03	4.24	3.85
04	1.52	2.19
05	0.59	0.82
06	1.24	1.83
07	2.75	3.18
08	3.11	3.02
09	3.12	0.28
10	1.16	1.72
11	0.50	0.13
12	2.35	4.46
13	1.28	1.22
14	0.75	0.41
15	0.93	2.01
16	2.26	1.00
17	0.04	0.11
18	0.49	0.44
19	0.93	0.94
20	0.22	1.13
21	1.35	1.24
22	1.04	0.62
23	1.01	0.79
24	1.02	0.74
25	1.25	1.06
26	1.02	0.70
27	0.68	0.70
28	0.96	1.03
29	1.13	0.98
30	0.74	0.65
31	1.03	0.65
32	1.13	0.96
33	1.03	1.05
34	0.92	1.12

※ 特化係数とは  
 域内生産額構成比  
 ÷ 福島県生産額構成比  
 (または、全国生産額構成比)  
 で求められ、福島県値(ま  
 たは、全国値)を1とし係数  
 が大きいほどその産業に特  
 化していることを表す指標。

第3-6-4図 いわき地域対全国特化係数



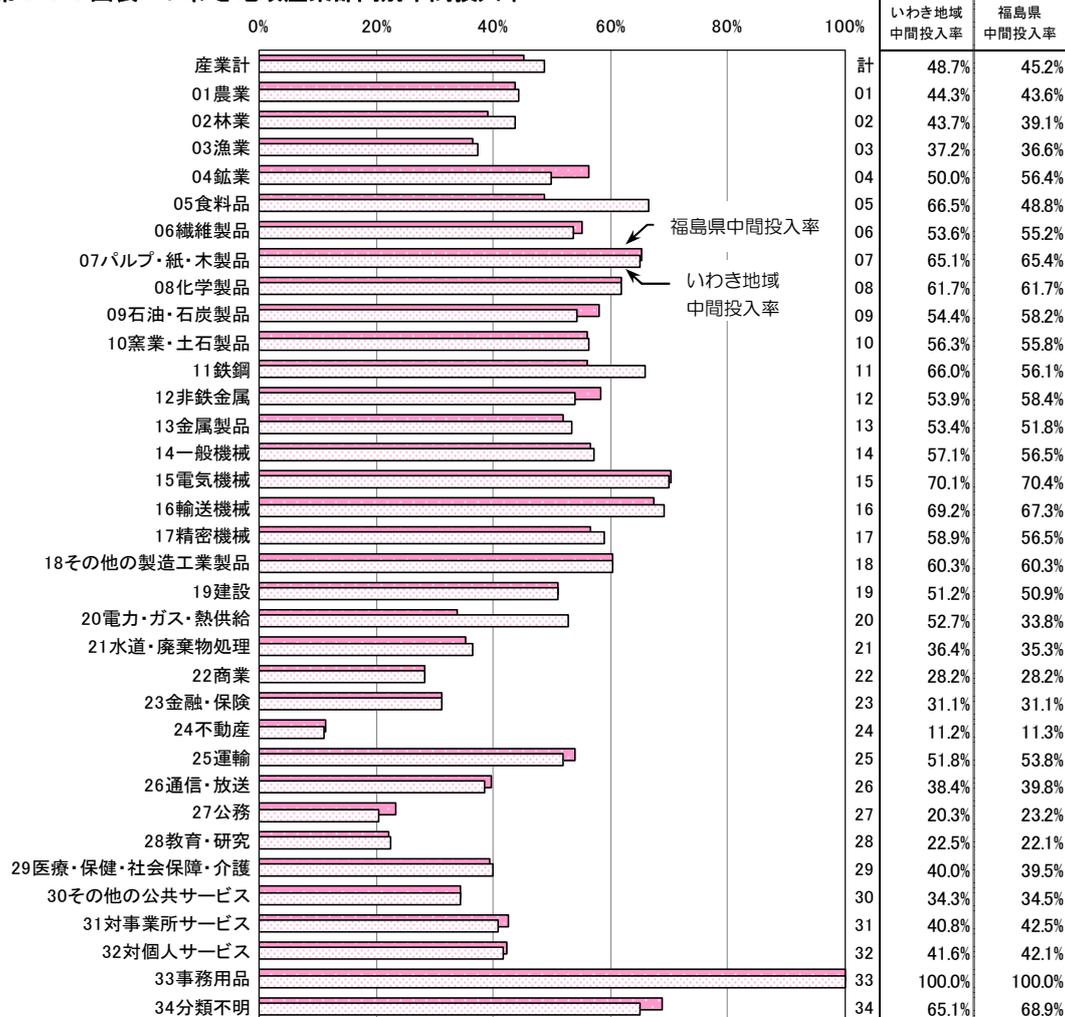
- 01 農業 02 林業 03 漁業 04 鉱業 05 食料品 06 繊維製品 07 パルプ・紙・木製品 08 化学製品 09 石油・石炭製品  
 10 窯業・土石製品 11 鉄鋼 12 非鉄金属 13 金属製品 14 一般機械 15 電気機械 16 輸送機械 17 精密機械  
 18 その他の製造製品 19 建設 20 電力・ガス・熱供給 21 水道・廃棄物処理 22 商業 23 金融・保険 24 不動産  
 25 運輸 26 通信・放送 27 公務 28 教育・研究 29 医療・保健・社会保障・介護 30 その他の公共サービス  
 31 対事業所サービス 32 対個人サービス 33 事務用品 34 分類不明

#### (4) 中間投入

いわき地域の中間投入率は全産業計で 48.7%となっており、6 生活圏中 2 位で福島県の産業計中間投入率よりも 3.5%高くなっている。また、34 部門表により産業部門別にみると（「事務用品」と「分類不明」を除く。）、「電気機械」の中間投入率が 70.1%と高くなっている。

産業部門別に県と比較して中間投入率が高い産業部門をみると、「電力・ガス・熱供給」が+18.9%と高い率になっている。次いで「食料品」が+17.7%、「鉄鋼」が+9.9%、「林業」が+4.6%、「精密機械」が+2.4%となっている。逆に中間投入率が低い産業部門は「鉱業」の-6.4%、「非鉄金属」の-4.5%、「石油・石炭製品」の-3.8%、「公務」の-2.9%、「運輸」の-2.0%などとなっている。

第 3-6-6 図表 いわき地域産業部門別中間投入率



※中間投入率＝中間投入額／生産額

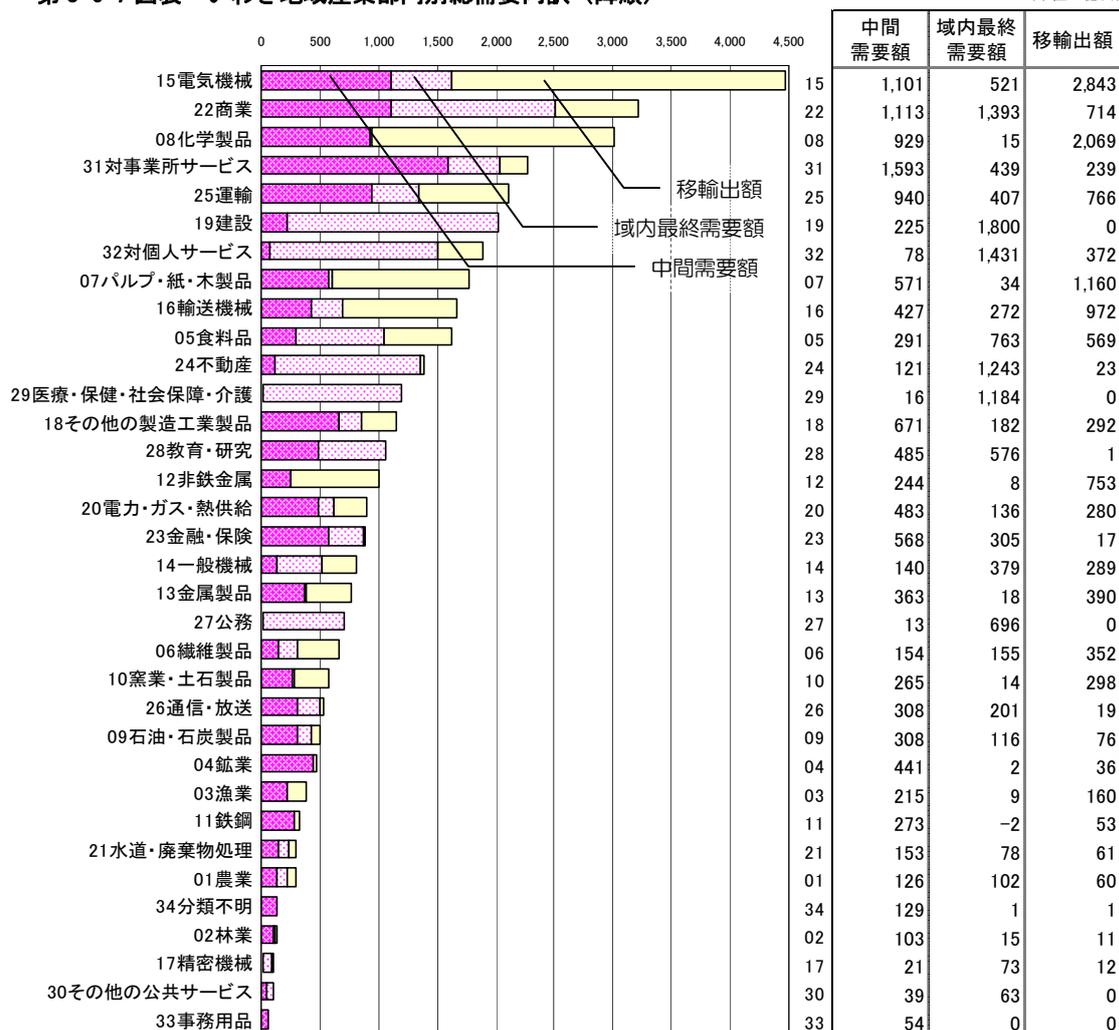
## (5) 需要構造

いわき地域の総需要額は3兆8479億円であり6生活圏中4位の額となっている。産業部門別需要額を34部門表でみると「電気機械」の総需要額が最大で、内訳は地域外需要である移輸出額が総需要の約64%を占めている。次いで「商業」、「化学製品」、「対事業所サービス」、「運輸」の額が上位になっている。

各産業部門の総需要内訳をみると、地域内産業の需要である中間需要額は「対事業所サービス」の1593億円が最大で、次いで「商業」の1113億円、「電気機械」の1101億円、「運輸」の940億円、「化学製品」の929億円などとなっている。地域内の家計消費や固定資本形成などの域内最終需要額は「建設」の1800億円が全産業部門中最大で、次いで「対個人サービス」の1431億円、「商業」の1393億円、「不動産」の1243億円、「医療・保健・社会保障・介護」の1184億円などとなっている。地域外からの需要である移輸出額は「電気機械」の2843億円が全産業部門中最大であり、次いで「化学製品」の2069億円、「パルプ・紙・木製品」の1160億円、「輸送機械」の972億円、「運輸」の766億円、「非鉄金属」の753億円、「商業」の714億円などが上位となっている。

第3-6-7図表 いわき地域産業部門別総需要内訳（降順）

(単位：億円)



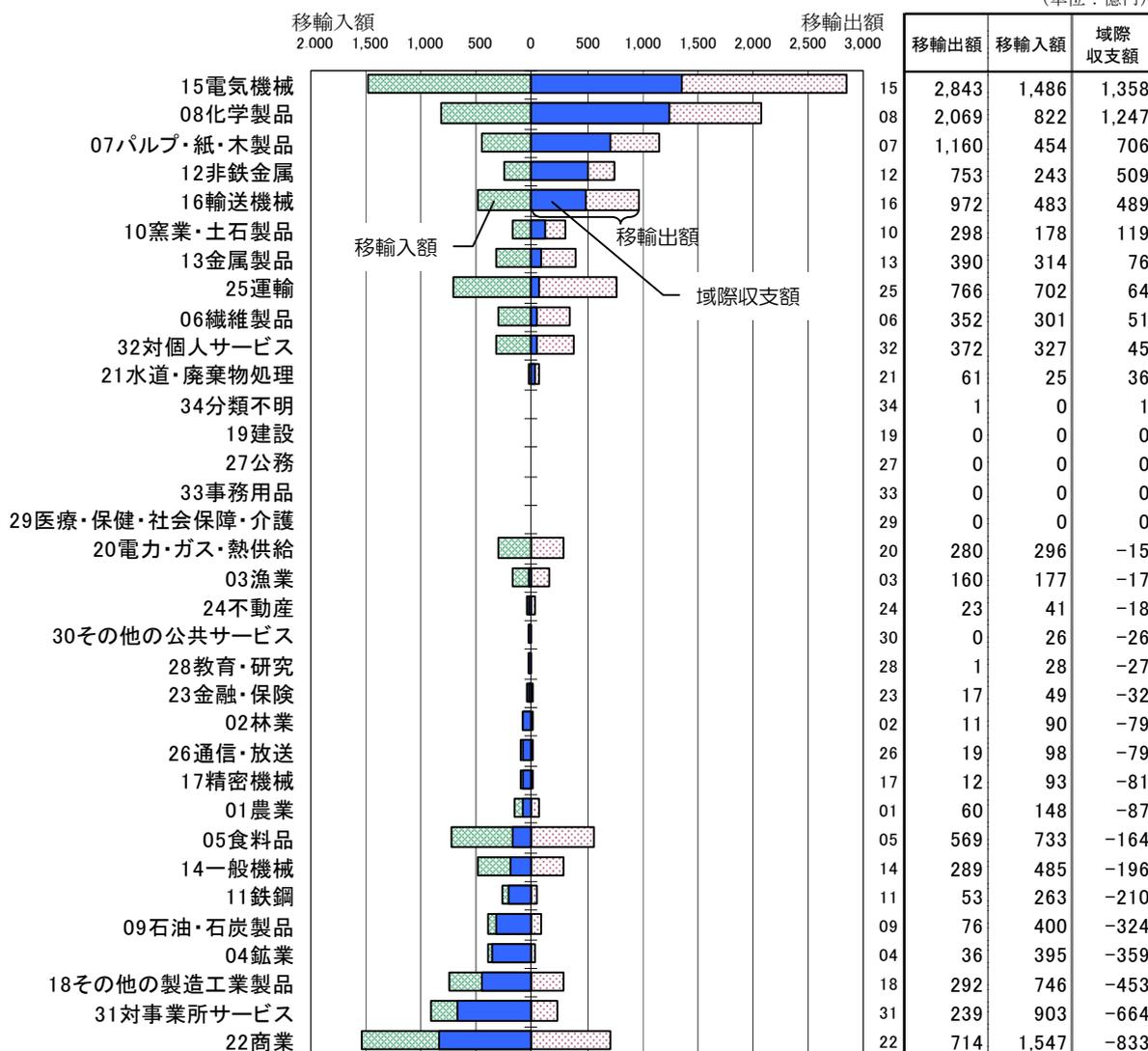
## (6) 域際構造

いわき地域の移輸出額は1兆2888億円(6生活圏中4位)、移輸入額は1兆1853億円(6生活圏中4位)となっている。産業部門別の移輸出入額及び域際収支額を34部門表でみると、移輸出額は「電気機械」が2843億円と全産業部門中1位で、域際収支額は1358億円の移輸出超過で最大となっている。次いで域際収支の移輸出超過が大きいのは「化学製品」の1247億円、「パルプ・紙・木製品」の706億円、「非鉄金属」の509億円、「輸送機械」の489億円などとなっている。

移輸入額は「商業」が1547億円と全産業部門中一番大きく、域際収支額が833億円の移輸入超過で全産業部門中最大となっている。次いで「対事業所サービス」の664億円、「その他の製造工業製品」の453億円、「鉱業」の359億円、「石油・石炭製品」の324億円などとなっている。

第3-6-8図 いわき地域産業部門別移輸出入額及び域際収支額(域際収支額降順)

(単位:億円)



※ 域際収支額=移輸出額-移輸入額 (プラス表記が移輸出超過、マイナス表記が移輸入超過)

第 3-6-9 図は移輸入率を縦軸に移輸出率を横軸にとったものである。移輸出率と移輸入率の関係から、いわき地域各産業部門の域際構造の特徴を次の 4 つに大別することができる。

[ I ] 域際交流型産業 (移輸出率 > 50%、移輸入率 > 50%)

域内で生産されたものが域外需要により移輸出され、域内の需要は域外で生産されたものによって賄われる産業。

第 2 次産業が主に該当する型であるが、いわき地域では「漁業」、「運輸」もこの型に属している。

[ II ] 移輸入依存型産業 (移輸出率 < 50%、移輸入率 > 50%)

域内の需要の多くが域外で生産されたものによって賄われている移輸入に依存した産業。

「鉱業」、「林業」、「農業」、「商業」がこの型に属している。

[ III ] 域内自給型産業 (移輸出率 < 50%、移輸入率 < 50%)

域内需要が域内供給によって賄われている産業。

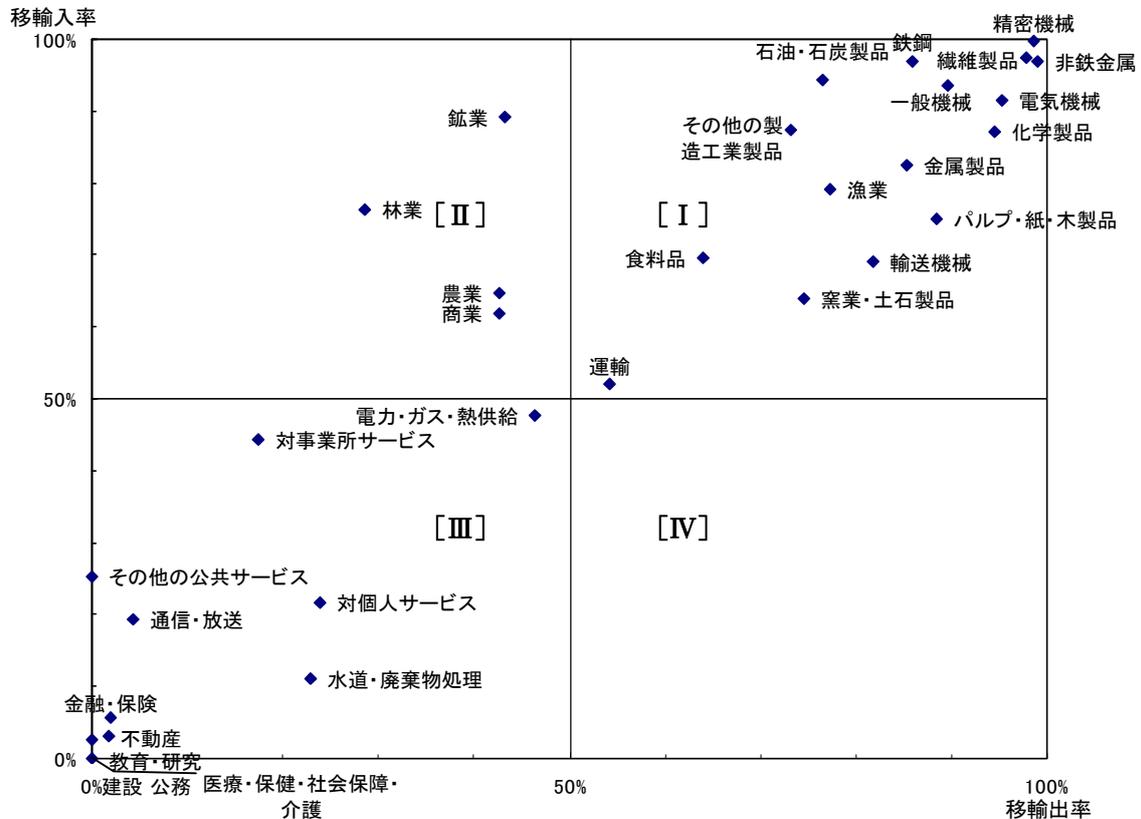
第 3 次産業の多くがこの型に属している。

[ IV ] 移輸出依存型産業 (移輸出率 > 50%、移輸入率 < 50%)

域内の需要を満たし、かつ移輸出も多く行っている産業。

いわき地域でこの型に属している産業部門はない。

第 3-6-9 図 いわき地域産業部門別移輸出率、移輸入率からみる産業域際構造



- 移輸出率 = 各産業の移輸出額 ÷ 各産業の域内生産額
- 移輸入率 = 各産業の移輸入額 ÷ 各産業の域内需要額

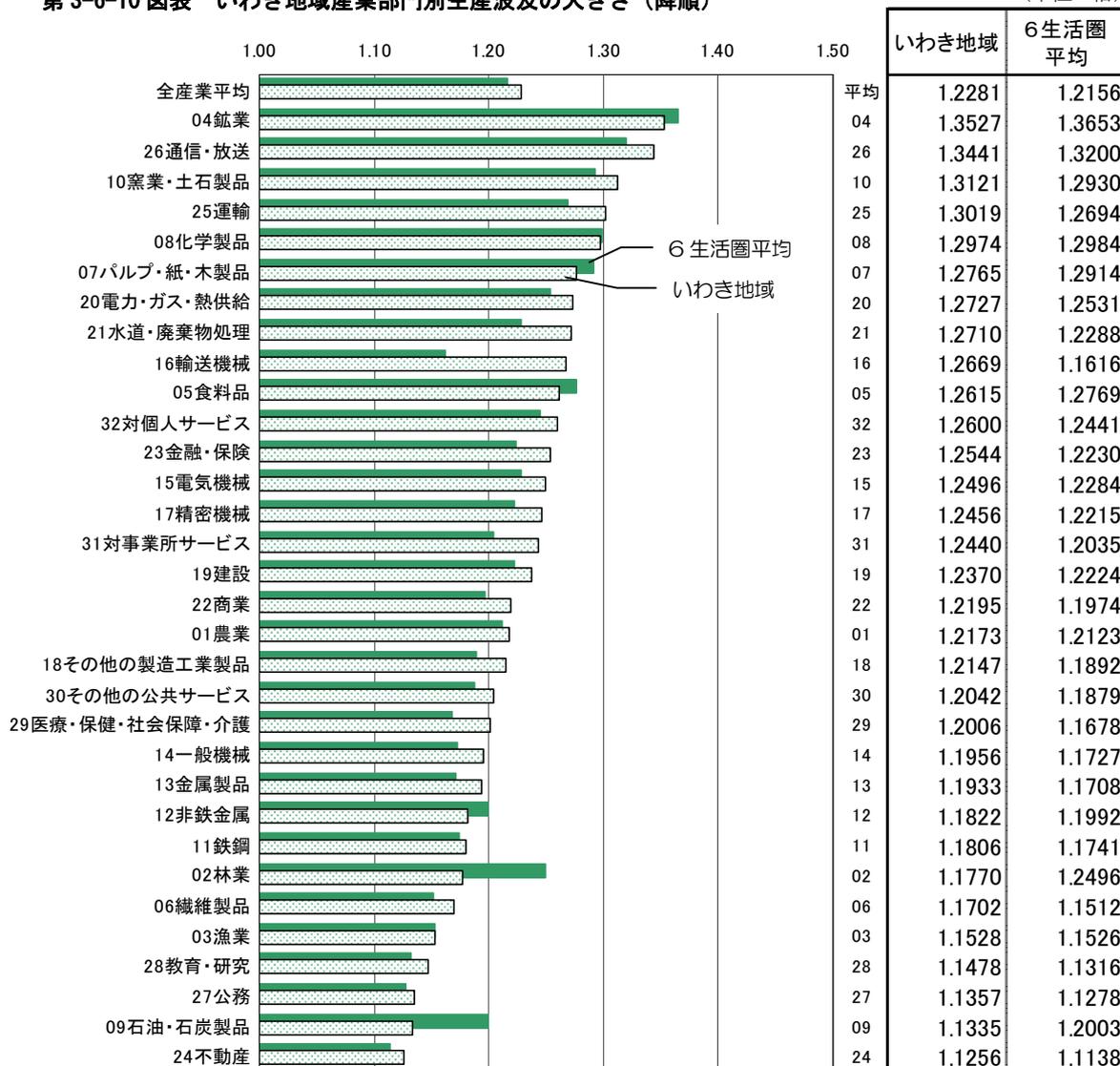
## (7) 生産波及効果

いわき地域の34部門逆行列係数表による生産波及効果倍率をみると(ただし「事務用品」と「分類不明」を除く。)、全産業平均で1.2281倍となり6生活圏平均1.2156倍を上回っている。

部門別にみると、生産波及効果倍率が最も高いのが「鉱業」の1.3527倍、最も低いのが「不動産」の1.1256倍となっている。「輸送機械」、「水道・廃棄物処理」、「対事業所サービス」など25産業部門で6生活圏平均を上回っており、逆に「林業」、「石油・石炭製品」、「非鉄金属」など7産業部門で6生活圏平均を下回っている。

第3-6-10図表 いわき地域産業部門別生産波及の大きさ(降順)

(単位:倍)



- 注 1 逆行列は開放経済型  $[I - (I - \hat{M}) A]^{-1}$  による。  
 2 生産波及効果倍率は逆行列の列和による。  
 3 全産業平均は34部門表のうち「事務用品」と「分類不明」を除く32部門の平均による。